

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 ～蘭越町の児童・生徒の概況～

## 1 調査目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康 等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査実施時期

令和7年4月～7月

## 3 調査対象(実施総数)

### (1) 小学校

調査対象	蘭越町	北海道(公立)	全国(公立)
第5学年児童数	25	17,998	766,445

### (2) 中学校

調査対象	蘭越町	北海道(公立)	全国(公立)
第2学年生徒数	18	17,765	656,594

## 4 調査内容

### (1) 実技に関する調査

- ① 握力
- ② 上体起こし
- ③ 長座体前屈
- ④ 反復横とび
- ⑤(小学生)20m シャトルラン (中学生)持久走
- ⑥ 50m 走
- ⑦ 立ち幅とび
- ⑧ ソフトボール投げ

### (2) 運動習慣や生活習慣等に関する質問調査

## 5 内容構成

### (1) 実技に関する調査の状況

- ・種目T得点、体力合計点
- ・レーダーチャート
- ・体力合計点の推移、総合評価の割合

### (2) 質問調査の状況

- ・調査結果の分析
- ・体力向上に向けた改善方策

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 蘭越町立小学校の状況及び今後の体力向上策

対象学校数 2校 / 調査実施児童数(5年生) 25名

## ■ 実技に関する調査の状況

注) T得点: 単位が異なる各種目(秒・cm・回など)を、全国平均(50点)と比較しやすくした数値

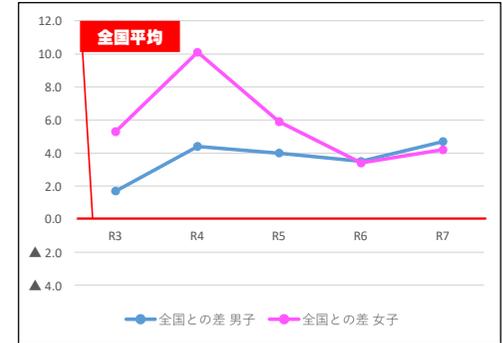
### <各種目のT得点及び体力合計点>

		握力	上体おこし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	フットボール投げ	体力合計点
蘭越町	男子	53.9	51.6	53.6	54.2	54.0	48.2	53.7	54.3	54.7
	女子	57.3	45.1	54.2	58.7	57.6	48.4	56.7	54.3	54.2
北海道	男子	52.1	49.8	50.5	51.9	49.5	48.1	50.4	50.9	50.6
	女子	51.8	49.6	50.6	52.0	49.6	48.2	50.8	51.9	50.7
全国	男子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	女子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

### <体力合計点(全国との比較)>

	男子	女子
蘭越町	54.7	54.2
全国	50.0	50.0
比較	4.7	4.2
ポイント変換	やや上回る	やや上回る

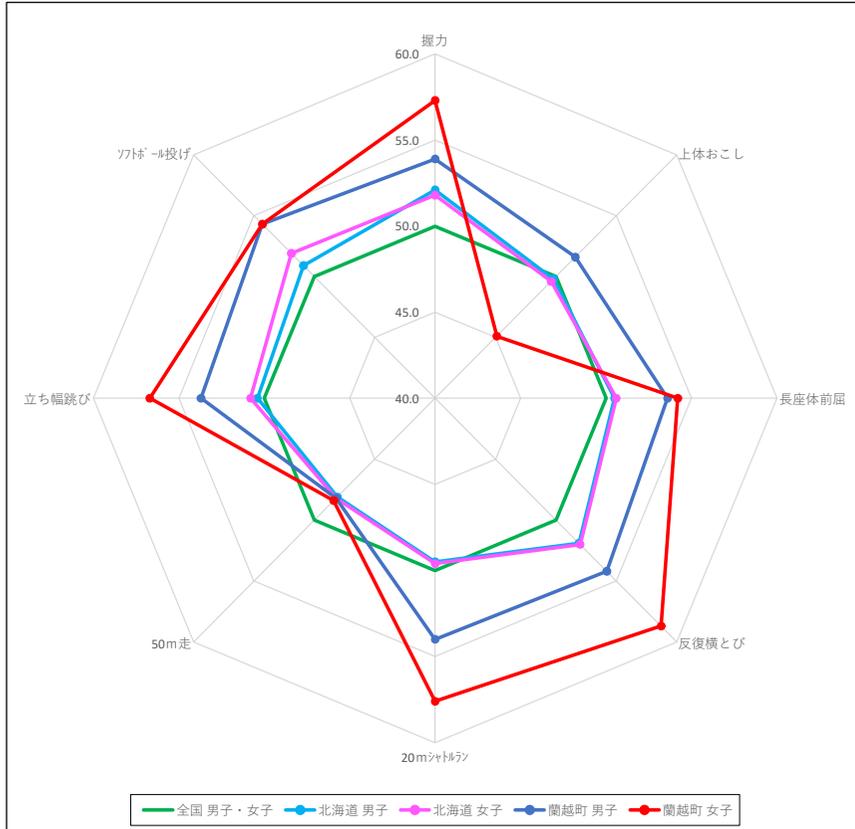
### <体力合計点の全国との差の推移グラフ>



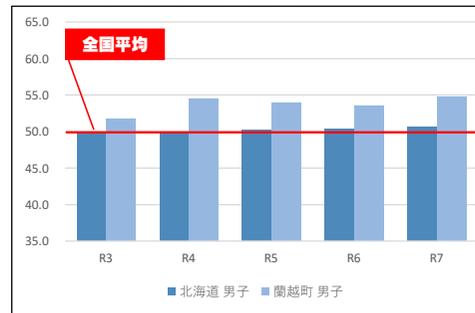
### <全国との比較の推移>

	男子	女子
R3	ほぼ同じ(上位)	上回る
R4	やや上回る	相当上回る
R5	やや上回る	上回る
R6	やや上回る	やや上回る
R7	やや上回る	やや上回る

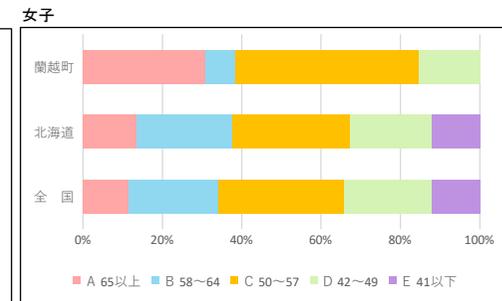
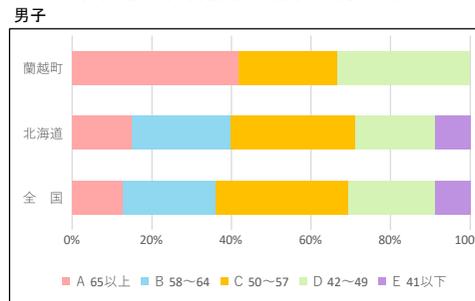
### <各種目のT得点の全道平均及び蘭越町の状況>



### <体力合計点の推移(男女別)>



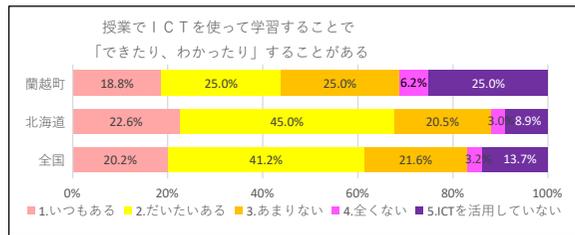
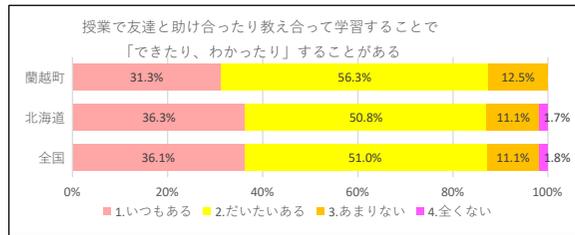
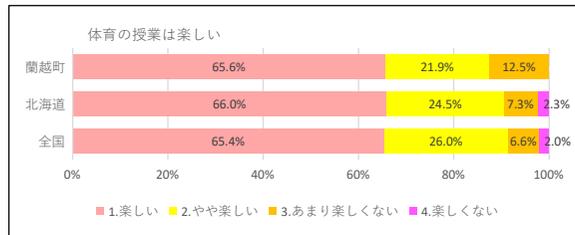
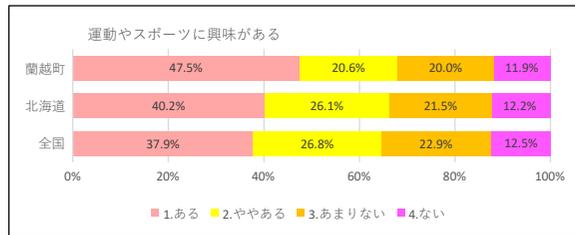
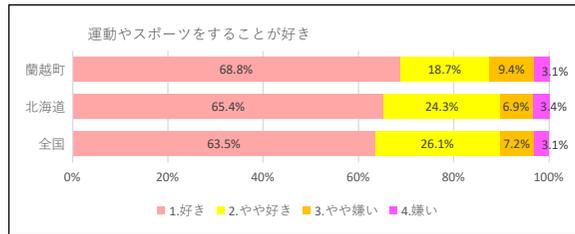
### <体力合計点の総合評価の割合(男女別)>



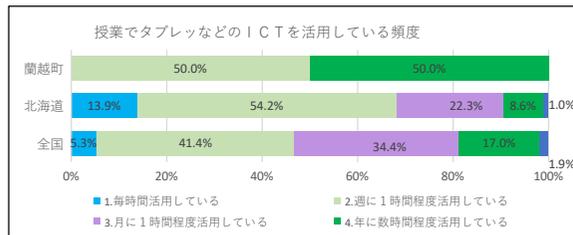
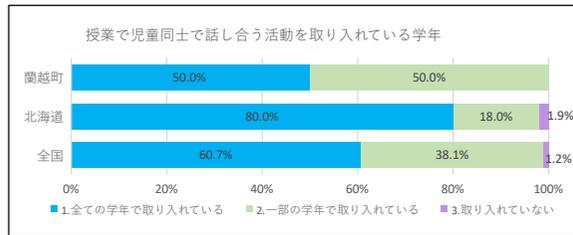
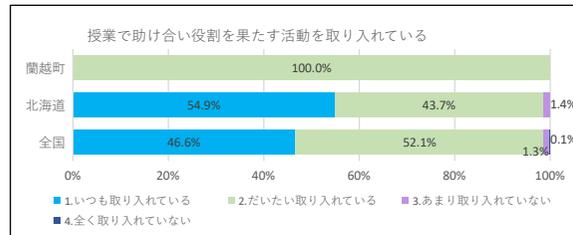
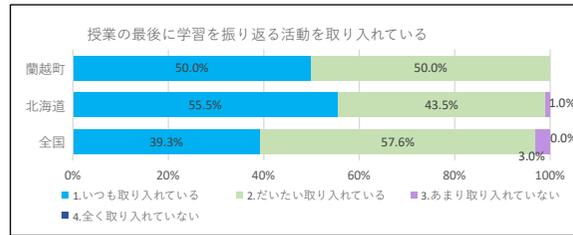
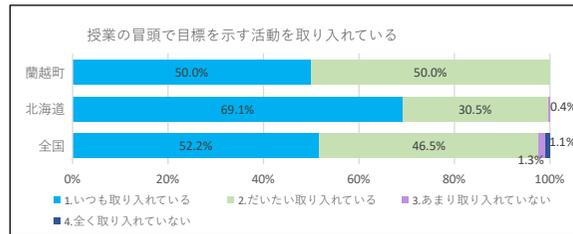
# ■ 質問紙調査（児童質問調査・学校質問調査）

## 【児童質問紙調査】

※蘭越町の集計は男子と女子の人数比を考慮した平均値を用いています



## 【学校質問紙調査】



## 調査結果の分析

### 【成果】

男子は、50m走以外の項目において全国平均をやや上回っている。また、総合的な体力合計点（T得点）でも全国・全道平均をやや上回っている。  
 女子は、上体おこし、50m走以外の項目で全国・全道平均をやや上回っている。また、総合的な体力合計点でも全国・全道平均を上回っている。  
 運動が好きと肯定的に回答した男子の割合が高いことや、男子、女子とも運動やスポーツへの関心が比較的高く、運動への高い意欲が実技結果に表れている。

### 【課題】

女子は、体力合計点が高い中で上体起こしの得点が低く、体感の弱さがみられる。  
 体育の授業が楽しい、進んで学習に参加しているとの回答率が比較的に低い。  
 体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで「できたり、わかったり」することがあるとの回答率が低い。

## 体力向上に向けた改善方法

### 【授業改善】

- ・全校で「目標提示」及び「振り返り活動」を定着させる。
- ・具体的な個人目標を設定させる。
- ・授業の最後に目標に対する達成度について自己評価を行うなど、次回の課題を明確にさせる。

### 【ICTの活用】

体育授業でのICT活用を、具体的な技能の向上へ結びつける。

### 【環境整備・地域連携】

- ・運動時間が比較的に短い児童に対し、地域の運動・スポーツ団体との連携を拡大し、放課後等の運動の機会を確保する。

# 令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 蘭越町立中学校の状況及び今後の体力向上策

対象学校数 1校 / 調査実施生徒数(2年生) 18名

## ■ 実技に関する調査の状況

注) T得点: 単位が異なる各種目(秒・cm・回など)を、全国平均(50点)と比較しやすくした数値

<各種目のT得点及び体力合計点>

		握力	上体おこし	長座体前屈	反復横とび	持久走	50m走	立ち幅跳び	フットボール投げ	体力合計点
蘭越町	男子	53.9	54.9	50.6	47.2	50.8	50.0	49.9	48.8	51.3
	女子	61.7	53.0	54.4	53.0	50.8	51.6	52.1	56.5	53.9
北海道	男子	50.9	49.2	48.6	48.6	47.0	48.1	49.5	49.7	49.0
	女子	50.0	48.6	48.7	48.3	46.6	47.9	48.7	49.8	48.3
全国	男子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	女子	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

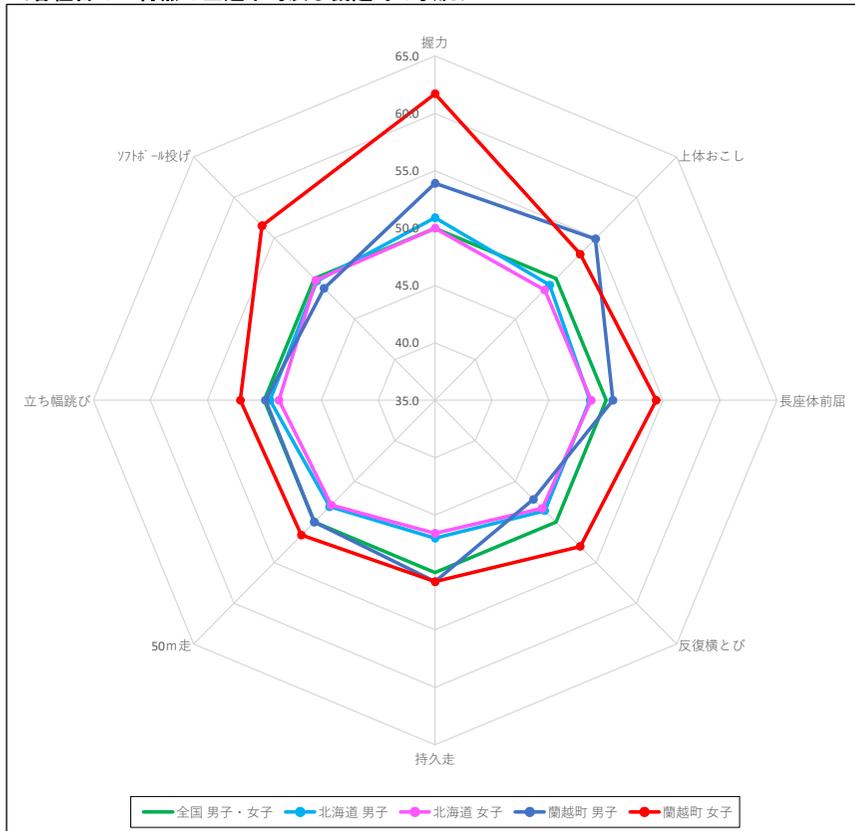
<体力合計点(全国との比較)>

	男子	女子
蘭越町	51.3	53.9
全国	50.0	50.0
比較	1.3	3.9
ポイント変換	ほぼ同じ(上位)	やや上回る

<体力合計点の全国との差の推移グラフ>



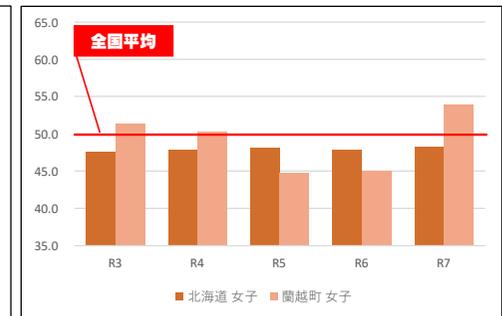
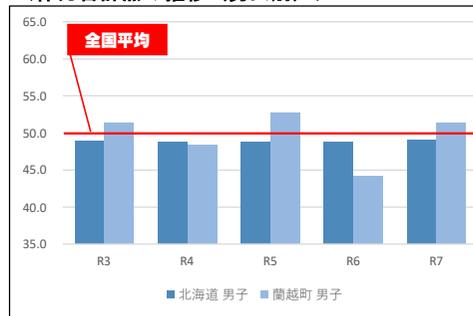
<各種目のT得点の全道平均及び蘭越町の状況>



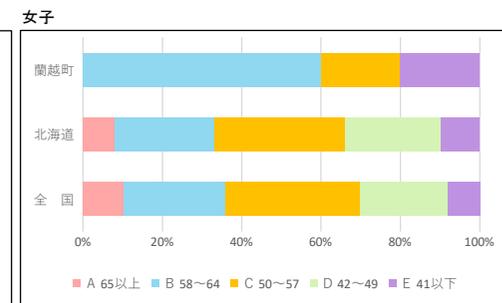
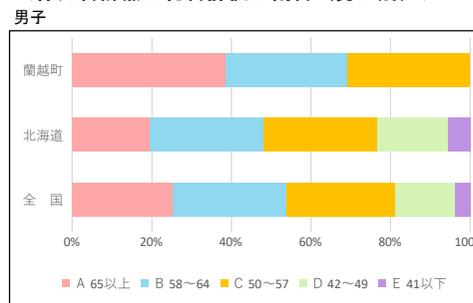
<全国との比較の推移>

	男子	女子
R3	ほぼ同じ(上位)	ほぼ同じ(上位)
R4	ほぼ同じ(下位)	ほぼ同じ(上位)
R5	ほぼ同じ(上位)	下回る
R6	下回る	やや下回る
R7	ほぼ同じ(上位)	やや上回る

<体力合計点の推移(男女別)>



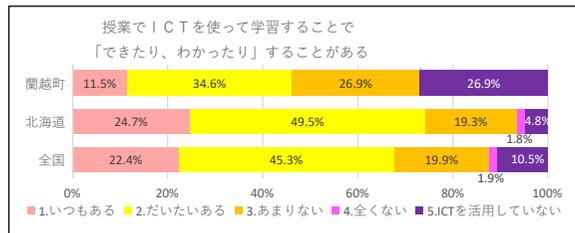
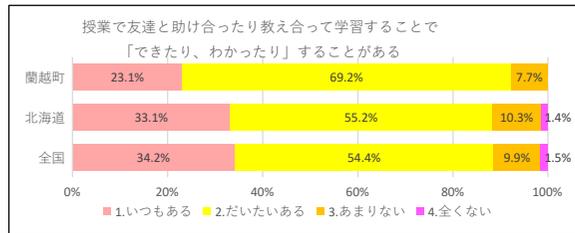
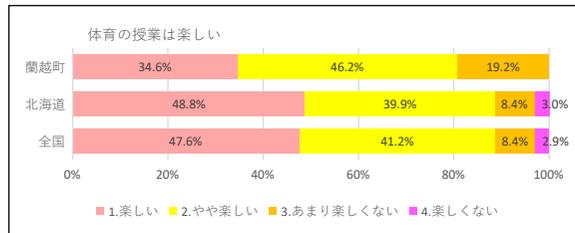
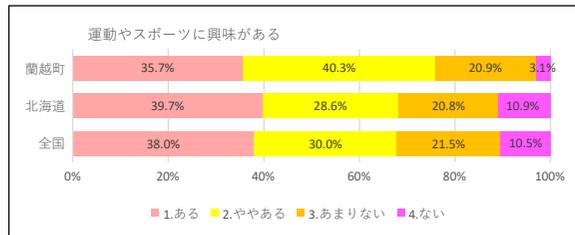
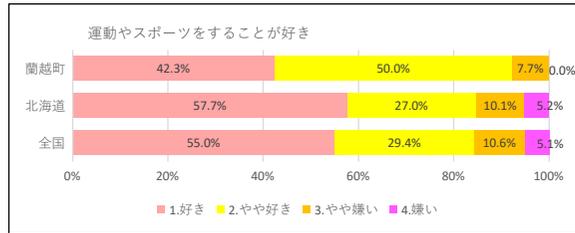
<体力合計点の総合評価の割合(男女別)>



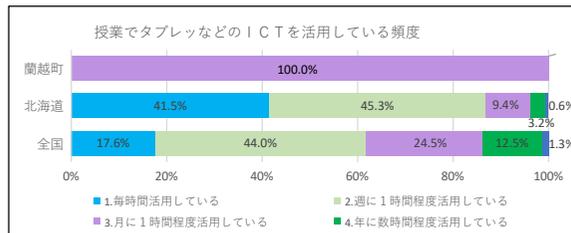
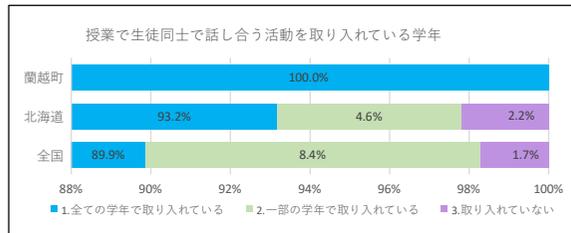
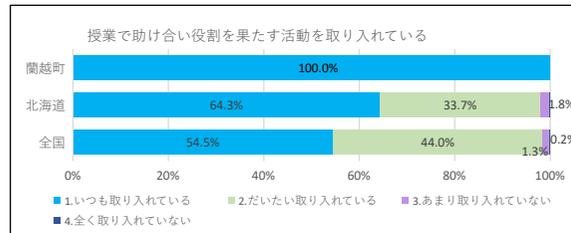
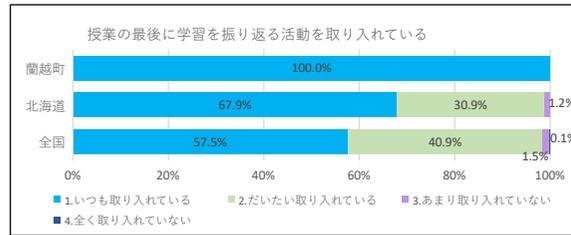
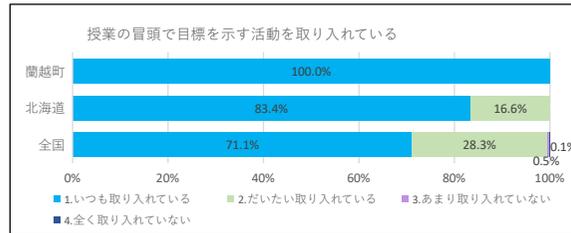
# ■ 質問紙調査（生徒質問調査・学校質問調査）

## 【生徒質問紙調査】

※蘭越町の集計は男子と女子の人数比を考慮した平均値を用いています



## 【学校質問紙調査】



## 調査結果の分析

### 【成果】

男子・女子ともほぼ全項目において全道・全国平均を上回っている。また、体力合計点（T得点）でも全国・全道平均をやや上回っている。特に女子は握力、ソフトボール投げのT得点が高い。  
対象生徒における令和4年度小学校時の調査結果と比較しても平均以上の運動能力を維持していることが伺える。  
運動やスポーツに肯定的な意識は高くないが、平均以上の運動能力を有する女子生徒が比較的多く、それが実技結果に表れている。

### 【課題】

運動能力が高い一方で、運動が好き、体育の授業は楽しいと回答した生徒が比較的に少なく、運動に対する意欲は低い傾向にある。  
体育の授業で、ICTを使った学習で「できたり、わかったり」することがあるとの回答率が低く、十分にICT機器を活用できていないことが伺える。

## 体力向上に向けた改善方法

### 【授業改善】

「目標提示」と「振り返り」の上に、生徒同士の「助け合い・教え合う活動」を充実させる。  
運動に意欲的に取り組めるよう、個々の能力に応じた段階的な課題設定を行なう。

### 【ICTの活用】

体育授業でのICT活用を継続し、生徒の学習データの蓄積と分析を行う。

### 【環境整備・地域連携】

一週間の総運動時間が比較的に短い生徒に向け、地域の運動イベント・スポーツ団体の情報提供などを積極的に行なう。  
家庭と連携し、「健康三原則（運動・食事・睡眠）」の大切さを伝え、生涯にわたる健康管理能力を育成する。